

教育データの分析・利活用に向けた 取組状況について

令和4年(2022年)2月
総合教育政策局 教育DX推進室



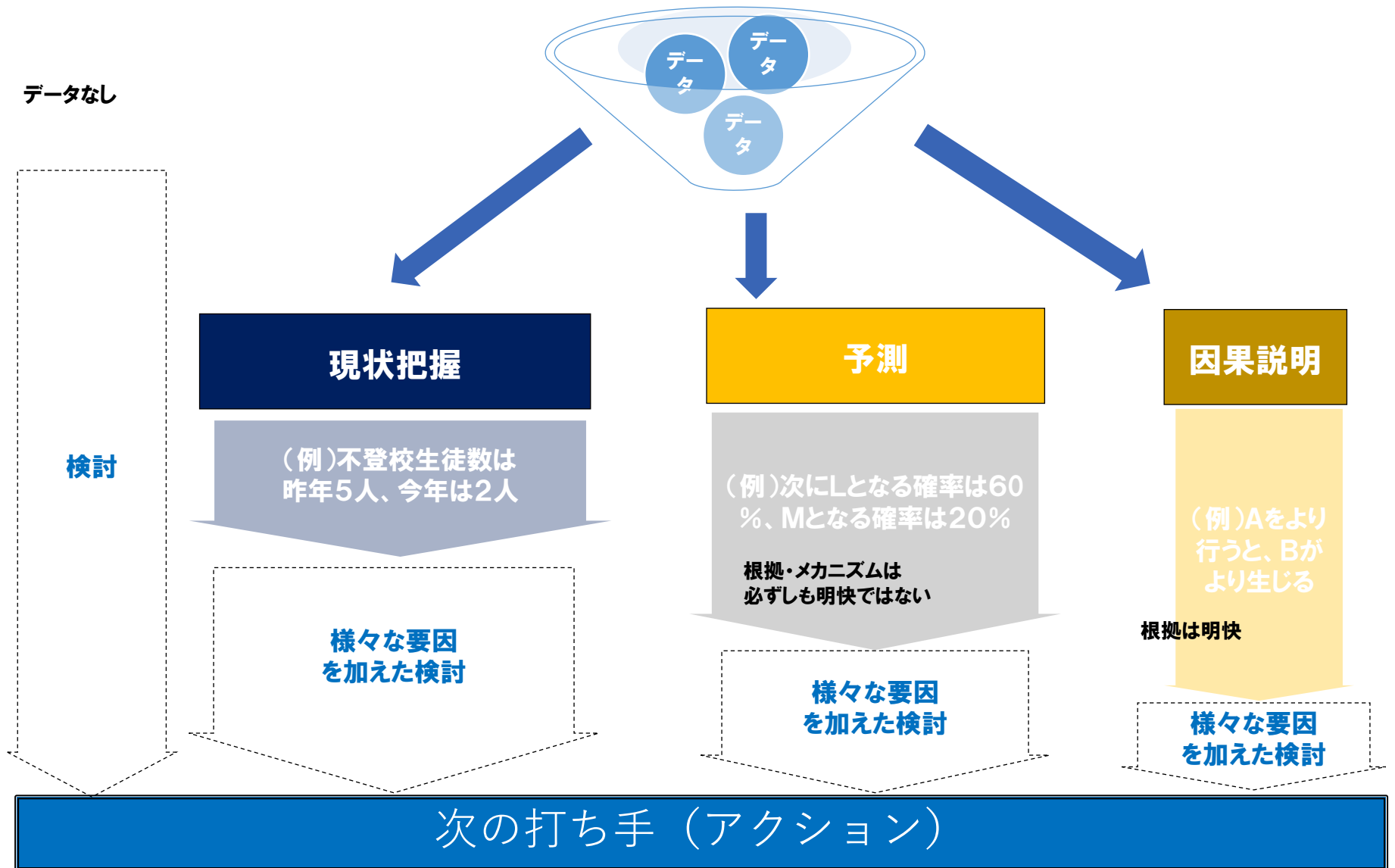
文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

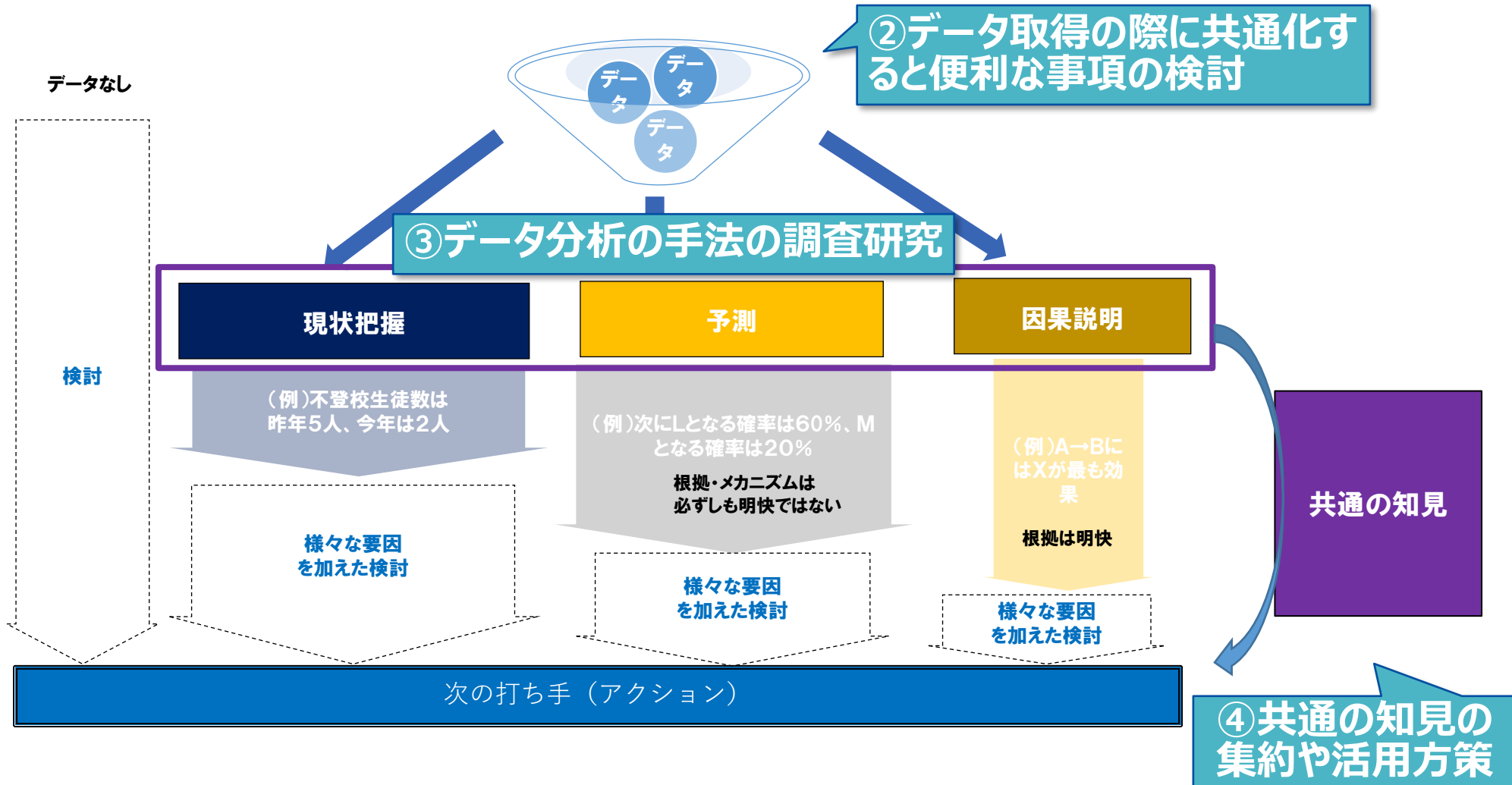
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

教育データの分析からアクションまで



教育データの分析からアクションまで

①安全・安心にデータ利活用をする上で必要な留意事項の検討



教育データの分析等の利活用関係の検討状況

①安全・安心なデータ利活用をする上で必要な留意事項の検討

学校設置者（地方自治体等）を越えて共通の項目があった方が便利である事項の整理・検討が必要。

○令和3年度の取り組み事項：

学校設置者や学校においてデータ利活用を推進する上で配慮すべき事項などをユースケースなどをもとに基礎的な資料を調査研究

②データ取得の際に共通化すると便利な事項の検討

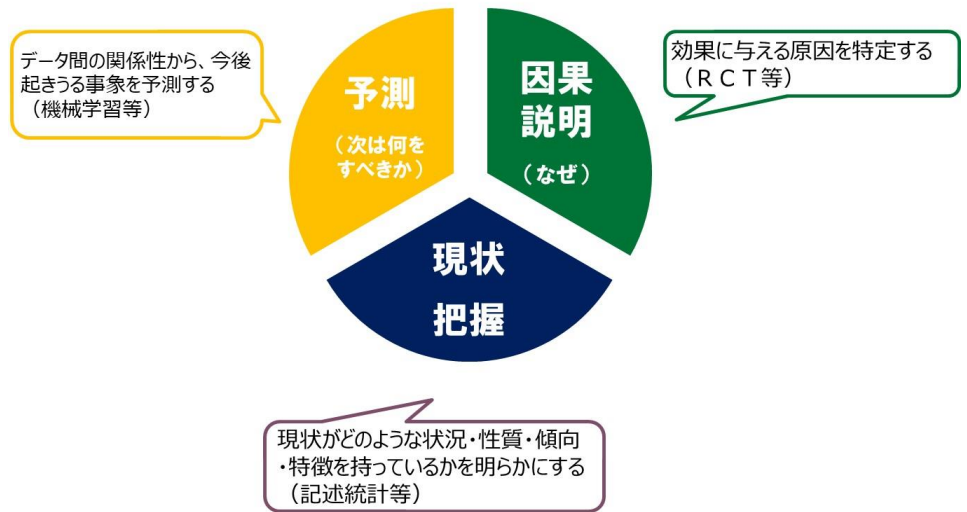
学校設置者（地方自治体等）を越えて共通の項目があった方が便利である事項の整理・検討が必要。

○令和3年度の取り組み事項：

- ・自治体・学校において共通的に必要となるデータ項目の括りだしに関する調査研究
- ・文科省CBTシステム（MEXCBT）における問題セット作成

教育データの分析等の利活用関係の検討状況

③データ分析の手法の調査研究



1. 現状把握

児童生徒や学校の状況をより多面的で正確に把握できるようにするため、多様なアプローチによる手法が必要

○令和3年度の取り組み事項：

- ①文科省CBTシステム (MEXCBT) における問題等の多様化
 - ・CBTならでは問題の開発
 - ・アンケートを実施する際の質問項目の在り方の検討
 - ・問題についての言語学的分析方法の検討
- ②映像、音声等 (非構造化データ) の活用可能性の調査研究

2. 予測

データ間の関係性から今後起きうる事象を予測することは、今後、学校現場等において判断の参考に活用される可能性が期待される。

具体的には、課題を抱える子供をいち早く見つけて早急に手が打つことや、学習者の特性や関心等に応じた学習や指導などに活用することが想定される。

○令和3年度の取り組み事項：

- ①自治体の福祉データと教育データの連携支援（内閣府・デジタル庁等と協働）
- ②文科省CBTシステム（MEXCBT）におけるアダプティブ機能の調査研究

3. 因果分析

効果に与える要因を分析する因果分析は、アクションに与える示唆・影響が大きい。

○令和3年度の取り組み事項：

- ①文科省CBTシステム（MEXCBT）における回答傾向分析
情報工学、教育学、社会学・経済学等の知見による分析等

④ 共通の知見の集約や活用

全国の学校設置者、学校現場において活用できる共通の知見を集約したり、活用の在り方を検討。

将来的に国立教育政策研究所・教育データサイエンスセンターの公教育データプラットフォーム等における知見共有などを促進。

○令和3年度の取り組み事項：

- ①教育データを活用した分析の評価やメタ分析の調査・研究
- ②大学における教育データ分析に関する調査研究

ご議論いただきたい事項について

- データ分析の手法について「現状分析」「予測」「因果分析」とカテゴライズしている点について
- データ利活用を考えていくにあたり、データ項目や測定手法がシステム、事業者、自治体ごとにまちまちになっていることについて